



青少年赤十字（JRC） リーダーシップ・トレーニングセンター



リーダーシップ・トレーニングセンター（以下、トレセン）では、2泊3日の集団生活において、フィールドワークやグループワーク、救急法等の様々なプログラムを体験し、リーダーシップの取り方を学びます。

トレセンは、特定の参加者だけがリーダーシップを取るのではなく、ある時はリーダーになり、また時には協力者の立場を取ることができるように、メンバー全員がリーダーシップの取り方を学ぶことが特徴です。

参加募集等詳細については、当支部青少年赤十字担当者までお問合せ下さい。



フィールドワーク



非常食づくり



救急法講習





トレセンの特徴的な取組

●ボランティア・サービス（V・S＝奉仕活動）

青少年赤十字でいうボランティア・サービスとは、自他が「ともに生きる」ための自発的な活動のことです。相手の立場にたち、相手の身になってその気持ちを理解し、自分の能力に応じて、できる限りこれにこたえていこうという、いわば人道を日常的生活で実践するために児童・生徒の人間的成長を期待するものです。

●先見（せんけん）

先を見通した考えや行動をすること。具体的には、これまでに学んだことを整理したり、次のプログラムで自分がどのように行動し、どんな点に留意するのかなどを考えます。

●合図（指示）のない生活（5分前行動）

「誰も号令をかけない、かけられない生活」の中でメンバー自身の自己管理を促します。トレセンでは、先生の号令はなく、行動の基礎になる情報は「掲示板」に掲示します。

●自主・自律の心を育む場

指導者は、問題の本質に気づくためにアドバイスやヒントを与え、メンバー自身の気づきと行動を引き出します。メンバー自身が問題やニーズを発見し、納得することにより、その後の取組のモチベーションの向上が期待されます。

●ホームルーム（HR）

家庭的な雰囲気の中で、メンバーが自分の考えや反省、疑問などを自由に出し合い、必要に応じて指導者から助言を得る時間です。

建設的に処理しまとめしていく過程で、自発的な生活態度を促し、各人の抱える課題を浮き彫りにさせていきます。

●フィールドワーク（F・W）

トレセンの総仕上げとして、グループごとに野外活動の中で、決められた様々な指示や課題をクリアしていきます。トレセンで得た知識や技術、態度を振り返ることで、実際にどれだけ身に付いたかを知る良い機会でもあります。

野外の美しい自然に接しながら、グループで実習することで、協調性や親睦増進の狙いもあります。

